

令和3年度 学校評価実施報告書

学校名 (上京中 学校)

教育目標

○校訓「人・もの・ときを大切に」

○学校教育目標 「自立・貢献・夢づくり」 (「夢現」)

・豊かな心とたくましく生きる力を備え、社会に貢献する夢や希望をもって、
未来を切り拓く生徒の育成

(「夢現」＝現状を的確に把握し、自己を見つめ考え判断し、他者と向き合い試行錯誤しながら学校生活を送ることができる生徒の育成)

年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

今年度後期の学校評価アンケートでは、教育目標について、生徒は1年生 98.4%、2年生 95.1%、3年生 98.3%、保護者は94%が達成できていると回答している。生徒は、おしなべて高い数値となっており、教育目標に対する理解度があり、行動化しようとする姿勢が伺える。さらに、教職員は、重要度 100%、実現度 100%の回答があり、教育目標に一丸となって取り組んだ姿勢がうかがえたことは成果である。今年度、校訓は昨年度からのものを引き継ぐものの、学校教育目標「自立・貢献・夢づくり」にはスローガン「夢現」を付け加えた。より具体的な指針を示すことで、教職員をはじめ生徒・保護者にも理解が深まり、具現化できると考える。また、将来を見据えた成長過程を意識して、学年・学級の目標が検討され取組もすすめられると考える。

また、本校教育目標を達成するための礎として、保幼小中の一貫教育における自己肯定感・自己有用感などの自尊感情の育成を柱として互いに連携しながら教育活動に取り組みたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

今年度は、コロナの影響もある中、学校運営協議会を2回開催することができ、学校評価結果を学校運営協議会理事・企画推進委員に提示し、直接ご意見や支援策などをいただいた。

本校の教育については、生徒も概ね落ち着いた学校生活を送っており、特に学習面では評価していただいている。新学習指導要領全面実施のもと、プレゼンテーション能力を含めた発信力を、いかに生徒につけさせるかを考えていただきたい、などのご意見をいただいた。

また、部活動休止、体育の授業内での活動制限などの影響で、体力の低下を心配するご意見をいただいた。今後の授業や部活動の活動内容の工夫が検討課題である。

次年度に向けても、学校教育推進のため、学校運営協議会とPTAが協力してあいさつ運動、美化活動、体育大会への支援、上京中ふれあいコンサートなどの保幼小中合同行事への支援を、コロナの情勢を判断しながら引き続き行っていただく。また、教職員が職務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保できるよう、働き方改革を推し進めるために協力的なご意見を多くいただいた。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年11月8日	学校運営協議会
最終評価	令和4年3月 書面にて	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の創造と支え合い高め合う集団づくりの推進

具体的な取組

- ①全国学力・学習状況調査や学習確認グラム（予習シート・復習シートを含む）を計画的に取り組ませる。また結果の分析を行い、生徒の学力実態を把握するとともに、育成すべき生徒の資質・能力を明らかにすることで、授業改善や指導の工夫に取り組む。
- ②年間指導計画に基づき、授業導入時のめあて・見通しの確認や、終盤のまとめと振り返りを徹底させる。また、授業を展開する上で以下の視点を持って指導に当たる。
 - i) 生徒を主体的な学びに導き、自らの学びを調整する力の育成をめざす。
 - ii) 学習の定着やその意味の確認を図るとともに、社会とのつながりや学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感できる工夫をする。
 - iii) また「目標に準拠した評価」や「指導と評価の一体化」の充実を図ることで、資質・能力の育成に資する効果的な学習評価を実施する。
- ③校内研究授業（6月・10月実施）や支部授業研究会、研究授業週間における授業交流などを通して指導力向上にむけて研鑽を積み、生徒が主体的に学ぶ授業を進めていくために、各教科で問題解決的な学習や探究活動の充実を目指す。
- ④GIGAスクール構想の下、情報活用能力を育てるためにICTを活用した学習場面を設定する。また、資質・能力を育成するための学習活動の充実させるために必要に応じICTを活用し個別最適な学びを創出する方策を開発し実践する。
- ⑤「学習のすすめ」や「学習の手引き」を作成し、日々の授業と家庭学習の連動を通して、主体的な学びにつながる自学自習の習慣化をはかる。授業と連動した課題の提示方法に工夫・改善を行う。
- ⑥定期テスト前や、長期休業期間を利用した補充学習を実施する。
- ⑦教科会の充実を図り、教員間の同僚性を高める。（時間割に教科会の時間を設定する。）
- ⑧支援が必要な生徒について、個別の指導計画・個に応じた指導計画を作成し、研修会を通して教職員の共通理解を深め、指導計画を活用して支援が必要な生徒の学力を向上させる。
- ⑨朝読書や図書館教育を充実させる。各教科・領域と連携し、多様な学習形態により言語活動の充実を図り、協働的な学びを生み出す工夫をする。また、思考力・判断力・表現力を育成するとともに主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・全国学力学習状況調査や学習確認プログラムの分析結果。
- ・全国学力学習状況調査生徒質問紙の結果。
- ・生徒および保護者アンケートの結果。
- ・授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。
- ・生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。
- ・問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。
- ・予習シートを仕上げたか。復習シートに取り組んだか。計画通りに学習を進めたか。
- ・GIGA 端末を使用して、学習に意欲的に取り組めたか。
- ・朝読書に積極的に取り組んでいるか。
- ・家庭学習は行っているか。

	<p>各種指標結果</p> <p>各種指標結果 （％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算） （下線は、今後の課題の対象と考える項目）</p> <p>○学校評価アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかりやすい」…3 学年とも 88～92％，保護者 <u>68.9</u>％，教職員（基礎基本）100％ ・「授業に意欲的に取り組んでいる」…3 学年とも 86～95％，保護者 83.7％，教職員 96.6％ ・「授業での話し合い活動に積極的に参加している」…1 年 83％，2 年 <u>68.6</u>％，3 年 91.2％， 教職員（場面設定）93.3％ ・「意見や考えを人前で発表している」…1 年 <u>60.6</u>％，2 年 <u>49.7</u>％，3 年 <u>72.6</u>％，保護者（得意）<u>40</u>％， 教職員（力がついた）<u>70</u>％，教職員（場面設定）93.3％ ・「GIGA 端末を利用して意欲的に学習に取り組んでいる」…1 年 89.8％，2 年 90.2％，3 年 95.9％， 教職員 90％ <p>○全国学力・学習状況調査結果（京都市平均との比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学ともに京都市平均を上回っている…（国語＋7.0，数学＋11.0） ・「1・2 年の授業で，課題の解決に向けて自分で考え，自分から取り組んでいたか。」81.8％ （全国 81.0％） ・「1・2 年の授業で，自分の考えを発表するとき，うまく伝わるよう資料や文章，話の組み立てを工夫したか」62.1％（全国 62.0％） ・「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできているか」84.3％（全国 77.8％） <p>○学習確認プログラム結果（最新結果，京都市平均との比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年生…国語，数学共に平均を上回っている…（国語＋4.3，数学＋4.5） ・2 年生…5 教科とも平均を上回っている…（国語＋5.5，社会＋5.1，数学＋9.1，理科＋4.5，英語＋9.1） ・3 年生…5 教科とも平均を上回っている…（国語＋8.2，社会＋8.0，数学＋13.1，理科＋15.1，英語＋7.4） <p>○「朝読書に積極的に取り組んでいる」…教職員（重要度）96.7％，教職員（実現度）90％</p> <p>○全国学力・学習状況調査結果「平日の読書時間が 1 時間以上」…<u>12.4</u>％（全国 14.1％）</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○学力向上に向けて，基礎基本の定着は概ね取り組んでいると考える。3 学年とも学習にも前向きに取り組める環境ができていることが大きな要因になっていると思われる。また，学習確認プログラムに向けての取組（予習・復習シート）もやりきらせる指導を行っているため真面目に取り組んだ生徒は結果に結びついている。</p> <p>○全国学力・学習状況調査から，3 年生は学校の授業以外に，平日 1 日あたりの学習時間（塾などを含む）が「2 時間以上」48％（全国 41.8％）という結果が出ており学習に多くの時間を費やしている生徒が多いことがわかる。</p> <p>○教員側は話し合い活動や発表の場の設定に積極的に取り組んでいるが，生徒たちは自信をもって人前で発表できるまでにはまだ至っていない。コロナ禍でもあり学習活動の中にも一定の制限はあるが，今後も生徒の実態を見極めながら学習活動に工夫を取り入れていきたい。</p> <p>○GIGA 端末を有効活用することで，生徒の学習意欲の喚起に役立つことがわかった。今後は基礎・基本の定着やより探究的な学習活動にも活用していきたい。</p> <p>○朝読書にも落ち着いた環境のもと，しっかり取り組んでいるが，「平日の 1 日あたりの読書時</p>

	<p>間が1時間以上」は12.4%（全国14.1%）と全高平均をやや下回っている。また「新聞をほぼ毎日・週1～3回以上読んでいる」12.2%（全国10.4%）という結果が出ている。昨今は新聞購読をされない家庭が増加傾向であるが、学校図書館とも連携しながら読書や新聞を読むことを励行したい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>本校生徒は落ち着いた学習環境のもと、また、家庭での学習習慣の定着により基礎・基本を身につけている生徒の割合は多いことがわかる。一方で生徒自身が「授業がわかりやすい」と感じている割合がやや低いことも明らかになった。今後は生徒に「わかった」という実感を伴わせるような、わかりやすい授業を展開するための工夫・改善をめざすとともに、生徒の興味・関心を引き出せるようなより発展的な学習活動も取り入れ、すべての生徒が意欲的に学習活動に参加できるよう工夫していきたい。またGIGA端末を効果的に活用することで個別最適化をめざした授業改善にも取り組んでいきたい。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。 ・生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。 ・問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。 ・学習確認プログラムの結果検証・予習シートを仕上げたか。計画通りに学習を進めたか。 ・朝読書に積極的に取り組んでいるか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGA端末が急に配備されたが、情報モラルや使い方などが心配。問題点がいろいろでてくるだろうが、そういったことやトラブルなどへの対応をしっかりやっていただきたい。 ・上京中学校の生徒は真面目で、落ち着いた環境で学べることは非常に有難い。朝読書は静かに落ち着いて取り組んでいる姿勢があるのが素晴らしい。その上で、生徒が積極的に発言する力、読書習慣の定着などが向上すると学力の向上にも繋がるのではと思います。

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <p>（）内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。</p> <p>○学校評価アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかりやすい」…3学年ともほとんどの教科で80～100%、保護者88.1%(68.9)、教職員（基礎基本）100%(100) ・「授業に意欲的に取り組んでいる」…3学年とも80～100%、保護者86.4%(83.7)、教職員100% ・「自分の考えや意見を発表している」…1年60.3%(60.6)、2年52.1%(49.7)、3年75.1%(72.6)、保護者（得意）49%(40)、教職員（できる力がついてきた）100%(70)（場面設定）100%(93.3) ・予習シートの完成提出。計画的な学習…予習シートをやらせきる指導と補習の支援を実施。 ・テスト前学習の計画表作成を指導。 <p>○「朝読書に積極的に取り組んでいる」…教職員(重要度)100%(96.7)、教職員(実現度)85%(90)</p> <p>○「GIGA端末を利用して意欲的に学習」…1年92.1%(89.8)、2年87.3%(90.2)、3年96.5%(95.9)、教職員（実現度）95%(90)</p>
--

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>○基礎・基本の定着はおおむね実現できていると考える。3 学年とも学習に意欲的・前向きに取り組める環境のもと、まじめに学習に取り組む態度がよい結果に結びついていると考える。また学習確認プログラムに向けての取組（予習・復習シート）もやりきらせる指導を行っているため、まじめに取り組んだ生徒は結果に結びついているという実感をもっている。定期テストに関しても、見通しを持って学習計画を立てて取り組むように指導している。また、学習に困難を示す生徒には放課後の補習やテスト前学習会で粘り強く指導を続けている。</p> <p>○どの学年でも 80%以上の生徒が「授業に意欲的に取り組んでいる」と答えている。新学習指導要領のもと、「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業の構築を目指す教員の不断努力とそれに応える生徒との協働により学習意欲の向上が学校文化として生まれているものとする。今後もわかりやすい授業、深い学びが生まれる授業を目指して授業改善に取り組んでいきたい。</p> <p>○生徒達の「自分の考えや意見を発表すること」に対する受け止めは微増が見られるものの課題が残ると考える。コロナ禍のもと、仲間同士で自由に話すことに制限があることが多少の影響を与えているとは考えられるが、自分の考えや意見を、根拠を持って伝える力は将来的にも必要なコミュニケーション能力の一つと考える。今後も指導の工夫・改善を目指したい。</p> <p>○朝読書については高い水準で取り組んでいるものの、前期と比較するとやや下がり気味である。生徒達に読書習慣の定着を目指した指導に取り組む他、ビブリオバトルや図書希望調査などを実施し、生徒の活動の活性化を図りたい。</p> <p>○GIGA 端末の活用について、コロナ関連の自宅待機生徒にも授業の配信などにも活用することができた。今後も生徒のテクノロジーのスキル向上に資するとともに、ICT を文房具としてとらえつつ、それを活用してプレゼンテーション能力の向上などに取り組めるよう、総合的な学習の時間を核として、教科横断的に指導していきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後も基礎・基本を着実に定着させるとともに、ウィズコロナの学習活動のあり方を模索し、話しあい活動や自分の意見・考えを発表する機会を多く設定し、生徒達の表現力の向上を目指したい。また ICT の活用も視野に入れながら、主体的・対話的で深い学びが実現するような授業改善・教材研究に取り組んでいきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの向上への取り組みを様々な学内での時間を活かしておられることが伝わります。（朝読書、予習・復習、テスト後のふり返り）、得意不得意はあると思いますが、自分の考えや意見を発表することは、理解を反映しますし、生徒同士の考えを深める機会なので、先生方に個人の意見を受け止めてもらい、学びに対して前向きに臨めるよう、引き続きお願いしたいと思います。平均点の非開示については、何か理由があるのでしょうか。メリット・デメリットあるかと思いますが、説明があることで理解が広がるのではないかと思います。 ・平均点を教えてほしいとの声が数名からありますが、クラス平均、学年平均点は出していないのでしょうか。もし教えていないのであれば、その理由をお聞かせください。学年平均なら特に問題ないと思われるのですが。 ・学業成績のつけ方について、一度学校の方針というものを保護者に伝えるべきでは、と思います。高校の PTA をした私は、上京中の立ち位置というのがわかっていますから、そんなのは取越し苦労と解かるのですが、高校生の親でもこの事をわからない方はたくさんいらっしゃる

	<p>と思います。</p> <p>(平均点、成績の内容の質問に関しては、質問者に回答を済ませており、今後、学校説明会等で説明する予定。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のすすめ」や「学習の手引き」を活用して、もっと家庭学習の時間を多くとり、確かな学力を身につけるよう、親も声かけをしていきたいと思います。 ・我が子の学力不足は学校のせいではないので、学校は十分にいろいろとがんばってやっていたと思っています。 ・今年も、人前での発表を苦手とする生徒が多い様に思われます。何年も同じ結果が出ているので、もう一歩踏み込んだ対策が必要なのでは、と思います。 ・アンケート結果で、「授業での話し合い活動に積極的に参加している」で、2年生が特に低くなっているのが少し気になりました。
--	--

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

豊かな心を育てる「関係」を創り出し、「自尊感情」や「自己有用感」を高め、自他を大切にし、高め合う「態度」を育てる取り組みを推進する。

具体的な取組

- ① 道徳の時間を中心としたしなやかな道徳教育の実践を推進し、他人を思いやる心や他者を認める心と、人と人との絆の大切さを感じさせながら、自らの生活や人生をより良くするために自ら正しい判断ができる力の育成を図る。
- ② 命を大切にする心や他人を思いやる心、感動する心など、生徒の豊かな人間性の育成を図る。
- ③ 自己有用感や自己肯定感などの自尊感情を持たせる中で、他人の良さを見つけようと努め、自分もまた周りから大切にされているという実感を持ち、「自信と誇り」を持って安心して自らの力を発揮できる集団づくり・学級経営を実践する。
- ④ 様々な教育活動を通じて、障がいの特性や障がいのある生徒の困りについて理解と認識を深め、互いに尊重し、共に成長し合う教育を推進する。
- ⑤ 授業やワークシートは対話を通して生徒が学び合い「深い学び」につながるよう、また生徒が自らの学びを主体的に把握し、その学びを実践につなげられるよう、単元や題材を構成する。
- ⑥ 「こころのあゆみ」に関して、学校教育目標、学級目標をもとに、道徳の授業を通して自分自身の現状を捉え顧みて、年間を通して自己目標を設定させる。
「道徳だより」を学期に1回発行し、保護者へ情報提供を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・年間計画に基づいて道徳の授業が実施されているか。
- ・道徳的価値の理解や道徳的態度・実践力が身につくよう指導されているか。
- ・自尊感情（自己肯定感と自己有用感）を高める集団づくり、学級経営ができているか。
- ・日常の清掃を積極的に行い、学校の環境をよりよくしていく努力をしたか。
- ・進んであいさつができているか。
- ・普段の交流事業や学校行事、生徒会活動における総合支援学校との交流。
- ・道徳の授業におけるワークシートの自己評価ができているか。
- ・「こころのあゆみ」における振り返りの変容。

各種指標結果	（％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）
	（下線は、今後の課題の対象と考える項目）
○学年教員で協力しながら、すべての項目について、年間計画に基づき指導できている。	
※学校評価アンケート結果	
・生徒……「道徳の授業は今後の生活に活かしていける」１年 92.5％，２年 <u>82.4</u> ％，３年 97.6％	
「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」１年 93.2％，２年 <u>87.6</u> ％，３年 95.2％	
・保護者…「子どもと『道徳』の授業の話をする」 <u>29.6</u> ％	
○自尊感情について	
※学校評価アンケート結果	
・生徒……「上京中学校は、人を大切にしている学校」１年 94.5％，２年 92.2％，３年 97.5％	
「自分は、周囲から大切にされ、自分も人を大切にしている」	
１年 <u>89.8</u> ％，２年 <u>89.6</u> ％，３年 96.8％	
・保護者…「子どもは、自分の長所を知り、自分の良さを生かそうと努力している」 <u>69.6</u> ％	
「子どもは、自分が大切にされていると感じている」92.6％	
「子どもは、人を大切にする言動をしている」90.3％	
・教職員…「生徒は、自分を大切にするとともに他者への尊敬・人権の尊重など実践的態度が養わ	
れている」90％	
「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している」100％	
「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を生かせる取組をしている」96.6％	
※全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 結果（３年生）	
・「自分にはよいところがあると思いますか」 <u>76</u> ％（京都府公立 <u>74.6</u> ％，全国 <u>76.2</u> ％）	
・「人が困っているときは、進んで助けていますか」93.4％（京都府公立 86.9％ 全国 88.5％）	
・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」	
99.1％（京都府公立 95.6％ 全国 95.9％）	
・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」97.6％（京都府公立 95.4％ 全国 95％）	
○美化意識	
・「学校は、掃除など美化活動に努力している学校。」…１年 95.3％，２年 <u>87.6</u> ％，３年 92.2％	
保護者 93.2％	
・「自分は掃除など、きれいな学校になるように努力した」…１年 93.9％，２年 90.2％，３年 93.5％	
○あいさつ	
※学校評価アンケート結果	
・「あいさつができる学校・生徒」…１年 <u>88.5</u> ％，２年 <u>85</u> ％，３年 90.3％，保護者 <u>85.9</u> ％，	
教職員 100％	
・「自分はあいさつができている」…１年 <u>86.4</u> ％，２年 90.2％，３年 96％	
○例年、北総合支援学校との交流を行っている。	
自己評価	分析（成果と課題）
	○昨年度は、生徒が道徳の授業の重要性を感じ、生活に活かしていこうという態度の向上が見られたが、今年度は著しく低下している側面があることが伺える。
	○「子どもと道徳の授業の話をする」と回答した保護者の数は年々減少しており、学校での教育活動を家庭に返す取り組みが急務である。

	<p>○あいさつができると回答する生徒の数が年々低下してきている。</p> <p>○全国学力・学習状況調査からは、自尊感情に関わる質問に対し、本校生徒の回答は府や全国と比較しても高い数値を示しているが、学校評価アンケートの例年の結果と比較すると、自他を大切にしている意識が低下していることが伺える。特に「自分は、周囲から大切にされ、自分も人を大切にしている」の項目に関しては、2学年で9割を下回る結果となった。子どもが自分の長所を見つけ、短所も含めてありのままの自分自身を認められるように、適切な評価を与えることが課題である。私たちが思うよりも子どもの自尊感情は低下しているということを、大人は心に留めておく必要がある。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○道徳の教材を自分ごとに捉え、実生活の中に置き換えて考えさせる発問や授業の工夫を行っていく。</p> <p>○保護者・教職員をはじめ子どもの周囲の大人たちは、子どもが何を求めているのかをよく見極めながら支援を行う必要がある。子どもへの接し方や声かけが、子どもの望みとかけ離れていないか、子どもの心に寄り添い指導・助言を行っていく。</p> <p>○環境が人に与える影響は決して小さくないと思うので、まずはそれぞれの教室の美化から見直していきたい。誰かにとっては快適だが、それを苦痛とを感じる人もいる環境なのではなく、みんながある程度快適と感じる環境づくりを目指していく。</p> <p>○子どもにあいさつの意義について考えさせ、実践させる機会をこれまで以上に持つとともに、日ごろの生活はもちろん、委員会や部活動の中でも、積極的にあいさつができるよう、折に触れて子ども達と共に考えていく。</p> <p>○道徳通信の発行数を増やし、家庭での保護者と子どもの対話と橋渡しをしていく。また、保護者にも子どもが受けている道徳の授業について関心を持っていただく機会を増やしていく。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳だよりの発行回数を増やすことができたか。 ・自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を高める集団づくり、学級経営を行い、それらの様子を積極的に保護者に伝えられているか。 ・挨拶について生徒が考え、実践する場面を、学級・部活動・委員会等で与えられているか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感や自尊感情などの低さは、コロナの影響があるのか心配。 ・上京中の生徒は謙虚で規範意識も高いが、自己主張が得意ではない生徒も多く、自信がない部分が多く見受けられるのでは。今後も、いろいろな方向からの支援が必要で、地域・PTA・保護者がより協力して見守る姿勢が大切なのではないかな。 ・家庭でも過保護になりすぎず、成長を見守ることも大切である。 ・子供の自尊心の低下は常日頃から感じることも多く、褒めて育てる（家庭や学校）ことで、自信をつけさせてあげることが大切だと思うし、それにより他者も大切にできると考える。 ・自信を持たせるために、例えば、意見を発表し、聞く側が褒めるような場を多く設けたり、ビブリオバトルのような取り組みを行ったりして、自己肯定感を高められたら良いと感じました。

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

(%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)

(斜字は中間評価時から特に改善が見られた項目 下線は、今後の課題の対象と考える項目)

()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「道徳の授業は今後の生活に活かしていける」

1年 90.5%(92.5), 2年 81.7%(82.4), 3年 98.2%(97.6)

「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」

1年 93.2%(93.2), 2年 88.1%(87.6), 3年 96.4%(95.2)

- ・保護者…「子どもと『道徳』の授業の話をする」 39.1 % (29.6)

○自尊感情について

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「上京中学校は、人を大切にしている学校」

1年 97.6%(94.5), 2年 94.4%(92.2), 3年 98.2%(97.6)

「自分は、周囲から大切にされ、自分も人を大切にしている」

1年 96.0 % (89.8), 2年 94.3 % (89.6), 3年 97.4%(96.8)

- ・保護者…「子どもは、自分の長所を知り、自分の良さを生かそうと努力している」 76.7 % (69.6)

「子どもは、自分が大切にされていると感じている」 90.6%(92.6)

「子どもは、人を大切にする言動をしている」 86.7%(90.3)

- ・教職員…「生徒は、自分を大切にするとともに他者への尊敬・人権の尊重など実践的態度が養われている」 90%

「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している」 100%

「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を生かせる取組をしている」

95.2%(96.6)

○美化意識

- ・「学校は、掃除など美化活動に努力している学校。

…1年 98.5 % (95.3), 2年 92.3 % (87.6), 3年 95.6%(92.2), 保護者 93.2%

- ・「自分は掃除など、きれいな学校になるように努力した」

…1年 97.9 % (93.9), 2年 89.4%(90.2), 3年 99.2%(93.5)

○あいさつ

※学校評価アンケート結果

- ・「あいさつができる学校・生徒」

…1年 92.0 % (88.5), 2年 90.1 % (85), 3年 95.6%(90.3), 保護者 89.1 % (85.9),

教職員 66.7%(100)

- ・「自分はあいさつができています」…1年 96.0 % (86.4), 2年 91.5%(90.2), 3年 94.6%(96)

自己評価

分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題

○中間評価時に課題の対象としていた1年生・2年生の自尊感情について、改善が見られた。「自分は周囲から大切にされ、自分も人を大切にしている」に「そう思う」「ほぼそう思う」と答えた生徒が、1年生では6.0%, 2年生では4.7%の増加が見られ、どの学年も9割に回復した。

○同じく中間評価時に課題の対象としていた1年生・2年生のあいさつに関する項目も、1年生・

	<p>2年生とも9割が肯定的な回答をしており、改善が見られた。生徒会のあいさつ運動の取り組み等が一助となっていると思われる。保護者の肯定的な回答も前回調査より改善されている。その一方で教職員の回答率には低下が見られた。促されてするあいさつから自発的なあいさつへの転換や、そのための教師の働きかけや、より深い人間関係の構築が求められているように見受けられる。</p> <p>○道徳だよりの発行数を増やし、「子どもと道徳の授業の話をする」と回答した保護者の数は前回調査から約10%増加したものの、依然4割に満たない。今後もこの課題に対する継続した取り組みが必要である。</p> <p>○道徳の授業を自分ごとに捉え、生活に活かそうとする態度を測る指数が前回に引き続き低下している。例えば登場人物の心理を理解させるだけにとどまらない多面的・多角的な思考を促す発問の仕方など、授業改善を目指して組織的に計画的に取り組む必要がある。</p> <p>○美化意識についても中間評価時より改善が見られた。心地良い環境を生徒たちの手で作り維持するための取り組みが、全校レベルだけでなく各学年・学級でも継続して取り組みたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○自尊心を高める集団づくりや道徳授業の質的改善に向けて等、学年会や教職員研修等の場でもっと気軽に議論や情報交換を行いながら、共に学び続ける意識や機会をもつ。</p> <p>○道徳だよりの発行に年間の見通しと計画性を持たせ、生徒や保護者へ喚起を続けていく。</p> <p>○挨拶の重要性について様々な側面から生徒に語り続けながら、生徒が自信をもって挨拶できる良い人間関係を構築し、マナーにならない取組を生徒と共に考えていく。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校へ伺う機会が減りましたが、生徒の皆さんのあいさつや先生方とのやりとりと少し拝見した時、素直さや雰囲気にも安心感がありました。道徳についての家庭内での話は、子どもから話すことはないため、保護者からのアクションがとれたらよりよいと思います。道徳だよりを配布いただけていますが、保護者にとっては結論部分しか見えず、親子・学校・地域・社会で考えるためのテーマやきっかけとなる話題があるとよいと考えました。 ・自他との違いや、自分の良さ（自己肯定感）に気付けるように、道徳の授業だけでなく、家庭でも親子で会話する時間を多く持ちたいと思います。 ・我が子はそれなりにのびのび育っていると思います。 ・コロナ禍と言えど、保護者が学校の様子を知りたい様です。参観日はやはり必要だと思うので、何か方法を考え、実施できる様にご努力ください。また、体育大会等、ウィズコロナでも、保護者が参観できる方法を考える必要があると思います。 ・今後もコロナで通常とは異なる学校生活が余儀なくされる可能性があります。心身ともに健やかに過ごせるよう、学校・地域・家庭で取り組んでもらえれば、と思います。 ・保護者が「子どもと道徳の授業の話をする」が低いのは、普段から、あまり親子の会話がすくない結果だと思います。会話が多いと自然と道徳の授業の話もするように思います。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

自らの心身に対する意識を深めるとともに、健康な生活を実践できるよう知識を身につけ、実践を通して健やかな体を育成する。

具体的な取組

- ① 運動やスポーツに親しむ気運を高め、その楽しさや喜び、達成感・成就感等を味わい、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践できるよう、体育学習や運動部活動の一層の充実を図る。
- ② 体育学習や部活動の実施にあたっては、組織的・計画的な安全管理を徹底するとともに、部活動の運営にあたっては、適切な休養日や活動時間を設け、安全で、より充実した活動となるよう学校全体で取組を進める。
- ③ 早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的な生活習慣をさらに確立するために実態調査を行うとともに保護者や家庭への啓発を図る。
- ④ 薬物乱用防止教育、性教育、エイズ教育等の実施により、正しい知識の理解を図り、心や体を大切にする教育を保護者、生徒に向けて推進する。
- ⑤ 学校教育全体を通して防災教育や防災管理を充実させ、自ら命を守る主体的態度や安心で安全な社会づくりの意識を高める。
- ⑥ 感染症の予防に対する正しい知識を身につけ、手洗いやマスクの着用など状況に応じて自ら予防できる能力を身につける。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生活習慣アンケートの実施。(毎日の起床・就寝時間、スマホ所持率、使用時間、手洗いなど)
- ・体力テスト結果、「全国体力・運動能力・運動習慣調査(2年生対象)」
- ・薬物乱用防止教室、性教育において正しい知識を身につけ、自らの心身を大切にしようとしているか。
- ・避難訓練において自ら命を守る主体的態度が育っているか。

中間評価

各種指標結果 (%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)

(下線は、今後の課題の対象と考える項目)

○全国学力・学習状況調査の結果より

- ・「朝食を毎日食べていますか？」では、「食べている」、「どちらかといえば食べている」の回答が 93.4%を占めており、全国平均を上回っている。
- ・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか？」では、「寝ている」、「どちらかといえば寝ている」の回答が 76.9%。「毎日同じくらいに時刻に起きていますか？」では、「起きている」、どちらかといえば「起きている」の回答が 91.7%でどちらもわずかながら、全国平均を下回っている。
- ・「携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか？」では「きちんと守っている」、「だいたい守っている」の回答が 74.4%と全国平均を 8%ほど上回っている。
- ・平日 1 日あたりどのくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータ、スマホ、ゲーム機)をしますか？では「4 時間以上」が 25.6%、「3 時間以上 4 時間未満」が 20.7%、「2 時間以上 3 時間未満」が 24.8%、「1 時間以上 2 時間未満」が 16.5%、「1 時間未満」が 22.8%という回答であった。

○体力テストの結果

- ・今年度は、コロナ禍ではあったが全ての種目において実施できた。（この体力テストは全国共通のもので、総合評価としてAからEの段階がある。）
- ・本校の集計より2年生については男子でB層、女子でA層の増加がみられる。
ただし女子についてはA層、B層の合計は減少している。3年生については男女とも3年間で段階的にA層、B層の合計で増加がみられる。
- ・京都市の集計結果より2年生の測定結果が1年次比べて低下が顕著に表れている。コロナ禍により部活動や体育の制限による影響が大きいのではないかとと思われる。

○感染症予防

- ・コロナ禍での学校生活も長くなってきたが、今年度は空気感染の危険性が高まっているように言われるようになり、学校生活の中では正しくマスクを着用できている。
- ・「学校に菌（ウイルス）を持ち込まない」よう登校直後の手洗いを促すため、手洗いの音楽を流した。
- ・昼食時は対面せず、黙食での食事を励行。
- ・体育実技の授業では、昨年同様にマスクに着用は自由にし、授業の最初と終わりに手洗いを、また使用した用具やビブスなどの洗浄、洗濯を行った。また熱中症予防のため、授業内であっても水分補給をこまめに行った。
- ・音楽の授業では全員が集まって合唱練習ができないため、練習場所を3か所用意し、小グループで距離をとり、一定の方向を向いて練習した。
- ・体調不良で保健室を訪れベッドを使用した場合、使用時間に関わらず、シーツやタオルケットなどすぐに取り換えた。
- ・各行事の実施時期や実施方法の見直し。
- ・休日の部活動でも健康観察表の確認、活動開始前、終了時の手洗いの実施。
- ・完全下校後、教職員による消毒作業の継続。

○避難訓練の実施

○薬物乱用防止教室、性教育は10月以降に実施。

自己評価

分析（成果と課題）

- 「朝食を食べる」ことについては、毎年ほぼ同じような結果で、高い水準を保っている。しかし、就寝、起床についてはほぼ同じ時間に行っているものの、睡眠時間が確保されているかはわからない。
スマホの使用については、「約束を守っている」、「だいたい守っている」という回答が多いわりに、平日のテレビゲームの時間が長く、スマホの使い方を守っていても、ゲーム時間が少ないというわけでないようである。
- 避難訓練については、事前指導を行ったあと訓練を行い、避難場所であるグラウンドで生徒同士が密にならないよう配慮して実施。
- 行事の実施時期や方法を見直し、感染対策を検討したうえで実施する方向である。

分析を踏まえた取組の改善

- 学校独自の生活習慣アンケートで昨年に引き続き、睡眠時間の調査を行う。
- スマホの使用時間とは別にテレビゲームをしている時間を調査し睡眠時間や学習時間との関係についてもう少し詳しく調査して相関関係を明らかにしたい。
- コロナ感染者数の減少や寒い時期への移行により、気がゆるんだり、手洗いがおろそかになっ

	<p>たりしないように予防の再確認を行う。</p> <p>○運動部活動の生徒たちは部活動の再開である程度体力の回復が図れるが、運動部活動以外の生徒については運動する機会が少なく、体育授業の中で体力づくりを意識した取り組みも入れていきたい。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○来年度の体力テストの結果との比較</p> <p>○学校独自に行っている生活習慣アンケートによる比較、検証。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べている生徒の割合や、同じくらいの時間に寝ているなどの割合が高いことは、素晴らしいと思います。 ・スマホの使用時間と学力の関係があることは明確。スマホの利用時間などの結果を見ると、家庭力の高さが現れている良い傾向だと思います。 ・アンケートは生徒の自己申告なので、信用性が低い。保護者の回答を増やすなどしていくのはどうか。 ・コロナの影響で在宅時間も増えたことで、体力低下、スマホ依存などによる睡眠不足などの問題があると思う。家庭でも食生活に気を配り、スマホ等の適切な使用ルールを守るよう、親子で取り組んでいきたいと思う。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○生活習慣アンケートについて、2 学期終わりから 3 学期の初めに実施する方向であったが、2 学期後半は延期になった行事が目まぐるしく行われ、3 学期に入るとコロナの感染拡大が急激に広がり、生徒たちの生活にも制限が大きくなり、普段の落ち着いた日常生活の中でアンケートを取ることができない状態になった。</p> <p>○体力テストの結果について中間報告では、京都市の体力テストの集計による考察であったが、新たにスポーツ庁の全国調査結果が出された。中学校毎の結果ではないが、京都市中学校の体力は調査が始まった平成 20 年度以来の最低値となっており、本校も例外ではないと考える。原因としてはコロナの感染拡大防止に伴い、部活動時間の規制や体育の授業だけでなく、学校の活動が制限されたことで体力向上の取り組みが減少したことが考えられる。特に京都市では、コロナによる、緊急事態宣言等で体育を含む活動が制限されることが多く、特に部活動に大きな影響があり、全国に比して下降幅が大きい。</p> <p>○年に 2 回実施している避難訓練のうち、1 回目は予定通り実施できたが、3 学期の避難訓練はコロナの感染拡大が深刻化しているため、グラウンドへ避難する訓練は行わず、教室で担任より安全学活という形で安全指導を実施した。</p> <p>○感染防止に向けた呼びかけについては体育健康委員の生徒たちが作成した感染予防ポスターを掲示するなど、予防の呼びかけはできた。しかし、京都市でもコロナ感染者の急激な増加が見られる時期にもかかわらず、寒い時期で常設の石鹸の減り方が遅くなり、丁寧な手洗いができていない生徒が増えたことが予想される。</p> <p>○外部講師を招いて行う予定の性教育や薬物乱用防止教室は 3 月に実施する予定である。昨年度、外部講師を招いて行うはずであった 2 年生の性教育はコロナの感染拡大防止に伴い実施できなかった分を、今年度 3 年生の 1 学期に実施することができた。</p>

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>○コロナ禍ではあったが、10月～12月の間は小康状態で部活動では活気を取り戻しつつあった。</p> <p>○コロナの状況により、体育のカリキュラム変更や活動の制限などがあり、体力向上を意識した授業は行えず、体力の低下は予想されたことであったが、全国調査の京都市の結果は予想以上で深刻である。</p> <p>○コロナ禍で、時期や実施方法の変更はあったが、避難訓練や性教育は実施することができた。</p> <p>○活動に制限があったことから、体育授業や部活動でのけがの発生が少なかった。ただし、普段の学校生活に戻った際のけがの予防に注意しなければならない。</p> <p>○ここ数年継続して行っていた生活習慣アンケートであるが、条件をそろえるために学校生活が落ち着いているときに実施しようと考えていたが、行事の延期やコロナによる学級閉鎖や自宅待機者が増え、実施の機を逃してしまった。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○コロナが収まり次第、体力向上を意識しつつ、生涯スポーツにつながるような授業の工夫、指導を行う。</p> <p>○全市的な喫緊の課題としての体力低下について、「体力向上プラン」の作成が掲げられ、本校においても、今後、検討・作成を進めていく。</p> <p>○生活習慣アンケートについて、今まで生徒を対象におこなってきたが、保護者の意識との違いを明らかにするのであれば、保護者へのアンケートも実施する。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも、衛生面の徹底、性教育、薬物に対しての教育も実施下さり、ありがとうございます。体力面の低下が授業や部活動の活動時間の減少により、やむを得ないのかと思います。友人と対面で遊ぶ機会が減ったため、ゲームやスマホに依存しています。家庭での関わりや、自律が難しいですが、粘り強く親子で取り組まないといけない課題だと考えています。 ・成長期の子どもにとって、基本的な「早寝、早起き、朝ごはん」の早寝の部分が遅くなりがちなので、スマホとの付き合い方も含め、親も今一度しっかりと子供に声かけをし、健やかに成長するよう協力したいと思います。 ・コロナなので仕方ないとはいえ、部活動がないのがかわいそうだと思います。

（４）学校独自の取組

重点目標
<p>小中一貫教育＜K（烏丸）K（上京）P（プロジェクト）＞における重点目標を「自らの未来を切り拓き、しなやかに生きる子どもの育成」と設定し推進する。</p>
具体的な取組
<p>○小中一貫教育における「目指す子ども像」を踏まえ、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を大切にする。 ・あいさつをする。 ・進んで学ぶ。 ・自分の考えを表現する。 ・地域を愛する。 <p>①小中の教職員が連携し合い、「中1ギャップ」の解消を念頭に置き、入学後も引き続き教科指導や生活指導を行う。</p> <p>②新入生の中学校入学に対する不安を取り除くために、部活動体験や授業体験、生徒会による学校紹介等の取組を行う。</p>

③授業交流や学力分析を通して、カリキュラムの連続性を考える。
④小中合同で地域行事に参加し、小中ブロックでの家庭・地域との連携を進める。
① ⑤小中合同研修会や小中間での公開授業などを進め、連携を深める。(GIGA スクールでの連携を図る)
⑥「目指す子ども像」について、学校評価アンケートの内容項目を再検討し、結果から9年間の子どもの学び・成長を分析する。
⑦ 中学校ブロックにある保育所・幼稚園(鶴山保育所・京極幼稚園・みつば幼稚園)との連携を推進する。
(取組結果を検証する) 各種指標
・小中一貫教育構想図に示した「めざす子ども像」について、小中で共通のアンケート項目を分析する。 (共通項目：人を大切にする。あいさつをする。進んで学ぶ。自分の考えを表現する。地域を愛する。)
・小中連絡会や校長会、教頭会、各部会を計画的に実施することができたか。
・保育園・幼稚園・小学校と中学校で開催する上京中ふれあいコンサートを行う。
・小学校と中学校合同の研修会や、授業・部活動体験を行うことができたか。
・学校だよりやホームページ等でKKPの取組を情報発信することができたか。

中間評価

各種指標結果
(%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)(<u>下線</u> は、今後の課題の対象と考える項目)
○学校評価アンケート結果
・地域を愛し、地域行事に参加している。
1年 68.1% 2年 57.5% 3年 66.1% 保護者 <u>42.8%</u> 教職員 70.0%
○全国学力・学習状況調査(3年回答)
・今住んでいる地域の行事に参加していますか。 <u>41.7%</u> (全国平均 43.7%)
・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。 52.1%(全国平均 43.8%)
自己評価
分析(成果と課題)
・KKP 夏季合同研修会をコロナ禍のため紙面発表となったが、保・幼・小・中の教職員が「人を大切にする」「あいさつをする」「進んで学ぶ」「自分の考えを表現する」「地域を愛する」の分科会にわかれて開催できたことはよかった。また共通フォルダーを利用して、他の分科会の意見なども見ることができたのはよかった。
・学校評価アンケートを見ると、特に「地域を愛し、地域行事に参加」の結果をみると、昨年同様、保護者回答の半数ほどがあまり思わない・そう思わないと回答している。一方教職員のアンケートでは、70%がそう思う・ほぼそう思うと回答している。保護者の理解との格差がある。
・全国学力学習状況調査では、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問項目で、全国平均より8.3%高い結果となっている。
分析を踏まえた取組の改善
・「めざす子ども像」についてさらに理解・認識を深めていく取り組みを進めていく。
・生徒の自己肯定感を高めるため、地域とのかかわりを増やす。(KKP 挨拶運動の継続など)
・学校だよりやホームページ等でKKPの取組を情報発信していく。
・本年度も、小6の授業体験など小中連携を通して、教職員間の連携を深めていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の学校評価を KKP 教務主任会などで共有していく。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざすこども像」の取り組みを、KKP の中で具体的に紹介して小中連携を深めているか。 (授業交流・合同研修を実施しているか) ・GIGA スクール構想を KKP として推進できているか。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあるが、もっと地域に声をかけていただけたら、積極的にお手伝いをさせていたきたい。 ・総合的な学習の時間で地域とのつながりができていくのは素晴らしいこと。 ・我が子も小学生時に上京中ふれあいコンサートに参加し、上京中学校吹奏楽部のレベルの高い演奏を聴いたり、幼保、小、中とのつながりの機会となっていたりして、とても大切な行事になっていると思うので、コロナが終息したらまた是非コンサートを開いてもらいたい。

最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・後期学校評価アンケート結果（％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算） ()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。 「地域を愛し地域行事に参加」…1 年生 67.4%(68.1) 2 年生 50.7%(57.5) 3 年生 56.2%(66.1) 教職員 55%(70) 保護者 37.4%(42.8) ・KKP として校長会・教頭会・教務主任会等、年間を通して行うことができた。 ・11 月 12 日に小 6 授業体験を行えた。 ・KKP の取り組みとして、今年度は生徒会だよりの交流ができた。
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートにおける「地域を愛し地域行事に参加」については、今年度もコロナ感染拡大の影響で地域行事が行われなかった影響もあり、値が低くなっていると思われる。また、後期の結果の中で、教職員の％が大幅に減少した点が気になる。 ・GIGA スクール構想については、学校ごとの取り組みで終わっており、連携が不足していた。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・KKP として共通の行事などを設定できそうなら行う。例えば地域の清掃活動など。 ・コロナ禍でできそうにない小中連携の取組は、オンラインで実施できそうなことはオンラインで行うようにしていく。 ・GIGA スクール構想についても、小中で連携していく。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小中との連携や地域の活動を教職員の方々が一丸となり取り組まれている事がよくわかりました。保護者の立場ですと、上京中を取り巻く地域への思いはありますが、コロナ禍により、ほぼ活動や行事が行えないため、必然的に行動できないための数値として出ているのかと思います。今後も少しずつでも地域の一員として成長していると実感できる機会が増えることを願います。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標

業務の効率化を図るとともに、自分自身のライフワークバランスについて見つめ直す。

具体的な取組

- ①日常的に業務時間、退勤時間について呼びかける。
- ②教職員１人ひとりが、ライフワークバランスの意識を持って業務遂行するように呼びかけ意識づける。
- ③〇ＪＴを意識した職場環境をつくる。
- ④会議の時間短縮と行事の精選や準備等の効率化を目指す。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・出退勤システムにおける月ごとのデータをもとに、教職員１人ひとりの意識改革を行うことができたか。
- ・会議の資料は事前配布することができたか。また、会議資料などを事前に GIGA 端末を用いて、共有できたか。

中間評価

各種指標結果

- 出退勤システムにおける超過勤務者（８０時間以上）・時間外勤務時間集計結果（教職員３１人）
 - ・４月…１２人（平均６４ｈ４２ｍ）…昨年度より人数、平均時間ともに増加
 - ・５月…４人（平均４７ｈ１５ｍ）…昨年度より人数、平均時間ともに増加
 - ・６月…１２人（平均７３ｈ ０ｍ）…昨年度より人数、平均時間ともに増加
 - ・７月…１０人（平均６１ｈ１４ｍ）…昨年度より人数、平均時間ともに増加
 - ・８月…２人（平均２０ｈ４７ｍ）…昨年度より人数、平均時間ともに増加
 - ・９月…３人（平均４７ｈ ９ｍ）…昨年度より人数、平均時間ともに増加
 - ・３か月連続超過勤務者…５人
- 職員会議の資料が事前に配布することができない時もあった。
- 教職員の協力により、職員会議・研修会の時間短縮ができた。
- 今年度は年度当初より通常授業が継続され、生徒との関わる時間が昨年度よりも増え、その関わる時間をより有効なものにしようとするために、他の仕事の効率化を目指す動きが指導者側に見られた。

自己評価

分析（成果と課題）

- 様々な教育活動が制限される中で、生徒と関わる時間をさらに有意義なものにするために、ICT 機器などの整備や準備、生徒同士・生徒と教員のお互いの理解を深めるための全校・クラスでの取組の時間の準備などに時間を使うことになり、結果、勤務時間に影響することになった面もあった。
- 緊急事態宣言発令下においての退勤時間の目安をさらに提示することで、意識の変革があり、その後、緊急事態宣言解除後も、退勤時間の目安をある程度意識しての勤務状態が続いている。
- コロナ感染防止の観点から、研修会の案件の精選・時間短縮を行った。
- 留守番電話機能を活用することで、一般家庭が考える教職員の勤務時間の意識が根付きつつあり、とんでもない時間帯に家庭からの連絡に対応する機会が減り、さらに、教職員も保護者対

	<p>応の時間帯を配慮するようになった。</p> <p>○超過勤務の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5・8・9月…緊急事態宣言・まん延防止措置などの関係で、行事の延期・中止、部活動休止期間があり、平日はその時間を自分の仕事や、さらに生徒との関わりを深めるための準備の時間にあてられたことや、休日の部活動練習指導・対外試合の生徒引率などがなかったために超過勤務時間が減少した。 ・ 4・6・7月…部活動が再開した関係で、緊急事態宣言下で勤務していた内容をそのまま取り組むことで、超過勤務が増えていた。一方で、慢性化していた超過勤務者の意識に「退勤時間を早めて守る」という意識の変化が少し見られた。 ・ 各自が自身のライフワークバランスについて考える雰囲気職場に出てきたので、更に意識を高めることが引き続き課題である。 ・ 職場内の OJT の意識を高め、業務の効率化を図ることは依然課題である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○生徒に関わる活動のための仕事を従前どおり継続しつつ、勤務時間の目標を設定し、その目標を達成できるように、各自が意識を高める。</p> <p>○各自がライフワークバランスと仕事の効率化を図るよう意識改革をさらに呼びかける。</p> <p>○OJTを浸透させ、中堅・ベテラン教職員と若手教職員が仕事の分担を図り、時間短縮を図る。</p> <p>○部活動指導時間と勤務のバランスを意識し、定着しつつある退勤時間の目安を引き続き意識していただくように呼びかける。</p> <p>○校務支援員・ICT 支援員の活用をすすめる。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出退勤システムの集計を分析・検討する。 ・ 教職員アンケートで意識調査を行う。 ・ 会議の資料は事前配布する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の先生方は非常に忙しく、部活の顧問などもあり、とても大変だと思う。ライフワークも大切にしつつ、仕事の効率化を図り、無理のない働き方をしていただきたいと思う。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○出退勤システムにおける超過勤務者（80時間以上）・時間外勤務時間集計結果（教職員31人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月… 15人（平均 68h41m） ・ 11月… 11人（平均 57h52m） ・ 12月… 7人（平均 54h50m） ・ 1月… 6人（平均 49h47m） <p>○業務の効率化・ライフワークバランス・まん延防止措置下での退勤時間について意識が高まっている。</p> <p>○職員会議・研修会の資料は事前に配布できたことも多かった。</p> <p>○職員会議・研修会の効率化を意識して時間短縮ができた。</p>

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>○留守番電話機能を設定していることや、働き方改革の意識が社会に浸透し始めていることもあり、教職員が保護者対応の時間帯を配慮するようになり、特に教職員・保護者共に遅い時間帯の電話対応は減少している。</p> <p>○職員会議・研修会の資料を事前配布することが毎回ではできなかったが、ある程度会議時間の短縮を図ることができた。今後はTeamsを利用した資料配布を実現し、時間短縮・ペーパーレス化を進める。</p> <p>○超過勤務の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月、11月に関する昨年度比は、人数も平均時間も微増した。また、100時間超えが10月は5人、11月は4人おり、部活動公式戦生徒引率指導、文化祭や体育大会の取組などがあり、全体的にかつ一部の教員に負担がかかった。 ・「No残業デー」（水曜日）をはじめ、まん延防止措置などにより、全教職員が退勤時間を意識して早くに帰宅する傾向にある。しかし、まん延防止措置などにより、部活動が停止になっている期間、部活動指導にあたっていた時間を生徒に関することでの打ち合わせに充てられたが、一方でコロナによる自宅待機生徒へのリモート授業配信対応準備・配布物の準備、家庭連絡などに要することが多かったことなど、負担も増えていた。 ・コロナ禍における自身の健康管理・不要不急の外出を控えることやライフワークバランスについて考える職員が増え、また、部活動停止になった期間もあり、12・1月の超過勤務者が減少した。これを機に更に意識が高まり、業務の効率化を工夫する体制になることが引き続き今後の課題である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムの集計を分析・検討を継続する。 ・会議資料を事前に Teams で配信し、時間の効率化、ペーパーレス化を図る。 ・OJT を推進することで業務の効率化に繋がる組織風土を目指す。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方、忙しくて大変ですが、先生が健全であるのが一番ですので、無理のないよう、お願いいたします。 ・生徒たちとの関わりに重きを置き、時間を作ってくださっていることに感謝します。オンライン授業になることで、準備も余計にかかり、負荷もかかっているのではないかと感じます。 ・ワークライフバランスがとれた生活が、先生方の健康と教育活動に直結すると思うので、学校全体で取り組んでいただけたらと考えます。併せて、各家庭へもその認識を広げていただければ、理解・協力も深まると思います。 ・コロナ拡大で、部活動が中止になる期間が多く、その時間で先生方が自分の仕事や様々な準備をする時間を持つことができたことはよかったと思います。今後も無駄を省いて効率よく働けるように取り組んでいただきたいと思います。 ・先生方にも家庭があるので、無理のないようにしていただきたいと思います。 ・教職員の方々の負担は以前にも増して大変かと思います。全企業などでも働き方改革はうたわれているものであり、教職員の方々もそういった事への取組み、充実した教育指導を行っていただければ、と思います。 ・コロナ禍における学級閉鎖の連絡や授業やテストの変更対応、また、各家庭で体調不良や濃厚接触があった場合の対処等、本当にありがとうございます。先生方のワークライフバランスが、

働き方改革により更に意識され実現することを願っています。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

- ・生徒が安心して学習その他の活動に取り組むことができる集団づくり，学級経営を推進する。
- ・生徒一人一人を大切にしたい信頼関係構築のための心の通った指導，見逃しのない観察，先を見越した対策を推進する。

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し，組織的対応に努めているか。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介しているか。
- ③ 学校評価（生徒向けアンケート）「生徒は，上京中学校が仲のよい学校であると考え，自分自身も学年や学級の人々と仲良く過ごせ，楽しく学校へ通えていると感じている。」に関する項目を検証する。
- ④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有しているか。
保護者や学校運営協議会等に，学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知しているか。

中間評価

各種指標結果（1回目）

- ①年度初めの職員研修でいじめ防止基本方針の確認を行った。
教職員アンケート「自分は“学校いじめの防止等基本方針”の内容を理解し，組織的対応に努めている。」では，「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100%であった。
- ② 今年度の始業式はグラウンドにて全校集会の形で行った。その時，学校長の方からいじめなど困ったことが起きた時はすぐに係の先生や自分が相談しやすい先生に相談に行くように指導してもらっている。
- ③各種アンケート結果（%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）
（下線は，今後の課題の対象と考える項目）
○学校評価アンケート結果
 - ・生徒……「自分は，楽しく学校に通っている。」 1年 87.1%，2年 84.9%，3年 97.6%
「上京中学校は，人を大切にする学校。」 1年 94.5%，2年 92.2%，3年 97.5%
「自分は，周囲から大切にされ，自分も人を大切にしている」 1年 89.8%，2年 89.6%，3年 96.8%
「上京中学校は，先生と生徒が話しやすい学校」 1年 95.9%，2年 92.1%，3年 98.4%
「自分はいじめられたり，いじめを見たりした時に，教員の誰に相談すればいいか知っている」 1年 91.8%，2年 80.4%，3年 90.4%
 - ・保護者…「学校は，生徒一人ひとりを大切にする授業・学級経営に努めている。」 86.7%
「先生は，楽しい学校づくりに努めている。」 87.4%

	<p>「生徒は、生き生きとしている。」 90.4%</p> <p>「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。」 83%</p> <p>「子どもは、自分が大切にされていると感じている。」 92.6%</p> <p>「子どもは、人を大切にする言動をしている。」 90.3%</p> <p>「子どもは、先生と話しやすい相談しやすいと言っている。」 <u>69.4%</u></p> <p>「HP の“学校いじめの防止等基本方針”を読んだことがある。」</p> <p>“読んだ” 34.6%，“あまり読んでいない” 35.3%，“読んでいない” <u>30.1%</u></p> <p>・教職員…「本校では、生徒の相談に親身になって応じている。」 100%</p> <p>「本校では、カウンセリングマインドをもって生徒に接し、適切に指導している。」</p> <p style="text-align: right;">96.7%</p> <p>「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している。」 100%</p> <p>「生徒は自分を大切にすると共に、他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度が養われている。」 90%</p> <p>④ 定例の生徒指導委員会で個別ケースの検討を行い、職員会議で内容を共有している。</p> <p>教職員アンケート「本校では、生徒・保護者（アンケート結果含む）の訴えや相談内容を共有している。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は 100%だった。</p> <p>⑤ 「上京中学校 学校いじめの防止等基本方針」のホームページ掲載を行った。</p>
自己評価	<div data-bbox="217 936 481 976" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">分析（成果と課題）</div> <p>いじめアンケートや教育相談から現在の段階で数件のいじめが早期に発見し、担任、学年、係を中心に対応し、解決することができた。また、生徒と教員間で一定の人間関係が築かれているため、多くの案件で早期発見対応ができているともいえる。</p> <p>昨年度までにあった重大事案に該当する事案や上記のいじめについても、会議や研修ごとに情報共有を行い、それぞれの生徒をケアしながら、今後も注意深く経過観察していくことが必要と考えている。</p> <div data-bbox="217 1272 568 1312" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">分析を踏まえた取組の改善</div> <p>今後も生徒指導委員会等を中心に各学年の情報交換を続けていき、会議等において教職員間の連携を密にし、いじめの早期発見により一層取り組んでいく必要がある。具体的には、10 月や 11 月にも教育相談やいじめアンケート等を行い、いじめの早期発見に努めたいと考えている。また、いじめが発見された場合には、学年を超え、係、管理職も加わりながら、学校全体で対応に当たりたいと思っている。</p> <div data-bbox="217 1563 903 1603" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <p>① 生徒指導委員会を中心に各学年の情報交換を続けていき、会議等において教職員間の連携を密にし、いじめの早期発見により一層取り組んでいるか。</p> <p>② 教育相談やいじめアンケート、また各学年パトロール等を行い、いじめの早期発見に努めているか。</p> <p>③ いじめが発見された場合には、学年を超え、係、管理職も加わりながら、学校全体で対応できているか。</p> <p>④ 会議や研修ごとに情報共有を行い、いじめに関係したそれぞれの生徒をケアしながら、注意深く経過観察できているか。</p>

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から相談できる生徒ばかりではないと思うので、担任の先生は常に何か表情など変わったことがないか目を配り、小さな変化を見逃さず、先生と周りの生徒で早期に解決できることが大切だと思う。 ・アンケートに出ていない部分もたくさんあるのでは。常にちょっとでも気になることは声かけしていくことが大切だと思うので、引き続きよく見守っていただきたい。 ・アンケート結果は素直な部分も出ているので、そこからしっかりひろっていただきたい。 ・PTA からいろんな取り組みを広めていただけるといいし、学校へしてほしいことも忌憚なく挙げてほしい。 ・運営協議会としても様々な支援を積極的にしていきたい。
---------	---

最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <div>各種指標結果 (2回目)</div> <p>◎教職員アンケート「自分は“学校いじめの防止等基本方針”の内容を理解し、組織的対応に努めている。」は、1回目に引き続き、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100%であった。</p> <p>◎各種アンケート結果(%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算) (下線は、今後の課題の対象と考える項目) ()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。</p> <p>○学校評価アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒……「自分は、楽しく学校に通っている。」 1年 93.6%(87.1), 2年 81%(84.9), 3年 92.8%(97.6) 「上京中学校は、人を大切にする学校。」 1年 97.6%(94.5), 2年 94.4%(92.2), 3年 98.2%(97.5) 「自分は、周囲から大切にされ、自分も人を大切にしている」 1年 96%(89.8), 2年 94.3%(89.6), 3年 97.4%(96.8) 「上京中学校は、先生と生徒が話しやすい学校」 1年 96.8%(95.9), 2年 90.8%(92.1), 3年 99.2%(98.4) 「自分はいじめられたり、いじめを見たりした時に、教員の誰に相談すればいいか知っている」 1年 90.4%(91.8), 2年 85.2%(80.4), 3年 71.1%(90.4) ・保護者…「学校は、生徒一人ひとりを大切にする授業・学級経営に努めている。」 83%(86.7) 「先生は、楽しい学校づくりに努めている。」 84.7%(87.4) 「生徒は、生き生きとしている。」 90.3%(90.4) 「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。」 87.6%(83) 「子どもは、自分が大切にされていると感じている。」 90.6%(92.6) 「子どもは、人を大切にする言動をしている。」 86.7%(90.3) 「子どもは、先生と話しやすい、相談しやすいと言っている。」 71.2%69.4) 「HPの“学校いじめの防止等基本方針”を読んだことがある。」 “読んだ” 40.8%(34.6), “知っているが読んでいない” 31.6%(35.3), “知らなかった” 27.7%(30.1) 	
---	--

・教職員…「本校では、生徒の相談に親身になって応じている。」95.2%(100)

「本校では、カウンセリングマインドをもって生徒に接し、適切に指導している。」

100%(96.7)

「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している。」100%

「生徒は自分を大切にすると共に、他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度が養われている。」90%

「本校では、生徒・保護者の訴え（アンケート結果を含む）や相談内容を共有している」100%

◎定例の生徒指導委員会で個別ケースの検討を行い、職員会議で内容を共有している。

教職員アンケート「本校では、生徒・保護者（アンケート結果含む）の訴えや相談内容を共有している。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100%だった。

◎「学校いじめの防止等基本方針」については、ホームページでの掲載を行っている。

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>いじめの認知件数は年間を通じて前年度より少し増えた。事案によっては一定の改善後も注意深く経過観察を必要とするものがあり、学年を中心にその後も注意深く見守っている。</p> <p>いじめと認知している事案に関しては、今後も会議や研修ごとに情報共有を行い、卒業まで継続し、それぞれの生徒をケアしていく必要があると学校として捉えている。</p> <p>また、生徒と教員間で一定の人間関係が築かれていることが大切であり、多くの案件が、いじめアンケートや教育相談等で早期発見対応ができているともいえる。そのため、昨年度同様、教育相談を今年度も3学期にも入れ、年3回行うようにし、早期発見対応に努めている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>生徒に対するアンケートの中で、「自分は、楽しく学校に通っている。」の数値が2年において1回目に比べ減り、数値も低いのが気になる。また、昨年もそうであったが、「先生と生徒が話しやすい」の評価では、生徒はどの学年も100%近い数値だが、保護者アンケートでは71.2%と低く、今まで以上に適切かつ丁寧な生徒との関りや、保護者対応を心がける必要を感じた。</p> <p>教職員アンケートでは、「本校では、生徒の相談に親身になって応じている。」の数値が100%を切ったのが気になる。また、「本校では、生徒・保護者の訴え（アンケート結果を含む）や相談内容を共有している」では、「そう思う」「ほぼそう思う」の合算数値が本年度も100%となり、いじめ等の生徒指導に関する生徒指導委員会や全体での研修会等の効果が見られた。今後も研修会等を続けていきたい。</p> <p>いじめの指導には、早期発見対応がとても大切になってくるので、生徒の悩みや課題解決について把握するため、次年度もいじめアンケートや教育相談等をしっかり実施していくとともに、校内での生徒の行動を全教職員が注意深く観察していく必要がある。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・学校でも気付いた事は、家庭にすぐ還元してもらえようお願いいたします。・自分の子には、いじめはしてはいけないし、されたもしくはそうでは？くらいでも話をしてほしいとは常に言っていますが、正直、学校でどのような対策をされているかまではわかりません。・担任の先生との教育相談で、子どもが何か悩んでいたら、相談にのってもらい、親も家庭の中で何か子どもの様子に変化があれば相談にのり、その中で先生にお伝えすべき内容ならお伝え

し、学校と家庭で連携していくことが重要だと思います。

- 子どもの話を聞いても、アンケートからも、上京中のいじめ防止や雰囲気が良いことは感じ取れます。しかし、一部の話から子どもの感じ方と先生の認識に差があり、溝があるようにも思えました。保護者に対しては、学校との関りが少なくなっており、クラスの様子がわからないことからの不安もあるのかもしれないのでは、と思います。可能な限り、先生方と生徒の関わりが見える機会を作られることを期待しています。